

2023.6.8 (木)
第 43 回例会
(通算3712回)

2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で」

2022-2023 年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度
R1会長 ジェニアーク・ジョーンズ
第 2500 地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

月間テーマ	ロータリー親睦活動月間
本日のプログラム	「佐渡正幸次年度ガバナー補佐エレクト卓話」(理事会)
次週例会	「ブームからカルチャーへ ひがし北海道のアウトドアライフ」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：杉村 荘平君
- 会員数 101 名
- ビジター なし
- ゲスト 佐渡 正幸次年度第7分区ガバナー補佐

例会の開会に先立ちまして、去る6月5日に当クラブ
会員清水幸彦パストガバナーがご逝去されました。こ
こに故人のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げたいと存じ
ます。
皆さま、どうぞご起立をお願いいたします。黙祷。

(黙祷)

会長の時間

滝越 康雄会長

今日は、時間が押
していますので、お
食事中の方はどうぞ
続けてお召し上がり
ください。私の会長
挨拶ですけれども、
清水パストガバナー
を偲んで、としてお話ししたいと思います。



5日未明に逝去されました清水パストガバナーに先
ほど黙祷させていただきました。佐渡ガバナーノミ
ニーはじめ北クラブの皆さま、メンバー多数に黙祷を
ご一緒に願ひ、本当にありがとうございました。
地区のみならず R I でも大活躍の清水パストガバナー
でございました。ご高齢だったとはいえ、とても残念
なことであります。
私ども、清水パストガバナーとの縁はこの例会場しか
ございません。いつも例会場で、そのAテーブルに

必ず必要で、ふさわしい方でした。
私は考えてみましたが、私は子供がいる京都に
時々行くのですが、例えて言うなら京都の東寺に五重
塔がありますけれども、中にそれを支える1本、心柱
が通っています。鎮座しているのが清水パストガバ
ナーで、ロータリーとしての特に釧路クラブとしての
要でございました。長年、しなやかに強風に耐え、困
難を乗り切ってきたお方でございます。しっかりと寡
黙の中にもロータリアンとしての振る舞い、メンタリ
ズムを表現し、スピーチではとても優秀な演家でも
あってユーモアがたっぷりのお方です。ロータリアン
でかくありなるとする存在でございました。
私が数年前に息子さんの清水輝彦君を副会長に、更
には昨年、会長ノミニーに指名した心理的いきさつをこ
こで申し述べたいと思います。
毎回、この例会場に親子でお越しになった時、端で見
ていて微笑ましかったことを記憶しています。見てい
て、お父さんから、なんとか息子が会長になれないか
という願いが、オーラを私なりに感じ取っておまし
た。誰かが指名しないかなと思っているうちに、私が
会長職に就いたものですから誰もやらないのなら私が
一挙に指名すると。私の思いとしては、清水パストガ
バナーがご高齢ですし、ご健在のうちに何とかしてと
思い、時間が限られることを私なりに感じていました
ので、あれだけ活躍された清水パストガバナーへの恩
返しのつもりでございました。指名後、会長と副会長

の中で話をしていますと「指名をした時、お父さんはどうした」と言ったら「ベッドの上で大変喜ばれて、重病ながらもポンポンと拍手をしていた」そうです。生前に息子さんの「会長ノミニー」を耳にし、喜んでいただいたことが私にとって何よりのことでした。指名から6カ月、会長ノミニーの時間帯はとて精神的には充実したと思います。今回、清水パストガバナーの訃報に際し、私は私なりに大きな役割を果たした気持ちであります。

清水パストガバナーすけれども、釧路ロータリークラブ90年弱のひとつの伝統を表す意味で、血筋を親子の会長就任で示したかった訳です。このクラブ活動計画書にズラリと並んでいますけれども、この下一行に清水輝彦を載せて1飛んで50と、そういう血脈を表したかったことが私の素直な気持ちでございます。2024年来年度は、清水輝彦君が就任であれば、お父さんから見てちょうど50年の会長職の予定でございます。

この幸福度合い満点の運命を受けられておられるご一家に、清水パストガバナーの死去というこの落胆が訪れようとは想定外でした。好事・魔多しとは言え、神様のきっとジェラシーとしか思えません。

今後は、清水副会長が健康を回復し、この例会場に再度お越しいただき例会に復帰してほしい、その願いを皆さまにお伝えし、会長挨拶にさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

幹事報告 中島 徳政幹事

幹事報告をさせていただきます。各クラブの例会案内については、テーブルにある例会案内をご覧ください。

いま、会長もお話しされました清水幸彦パストガバナーについて皆さんにお知らせをしておきたいと思っております。私に6月6日の夕刻連絡が入りました。副会長の奥様にお悔やみを申し上げるとともに「クラブとして何かできないかできないでしょうか。一度、お線香を上げたいのですが」とメールでお伝えしましたところ、「新聞広告に出ますので、そちらをご覧ください。それまでお待ちください」というお返事をいただいております。

本日、皆さん、お読みになられたと思いますけれども、新聞の黒枠広告に出ておりましたので、本日の例会・クラブ協議会が終わりましたら、お伺いをしてお花とお線香を手向けたいと思っております。私の知り合いの葬儀社にお伺いしたところ、先生は昨日茶毘に付されて繰り上げ法要等は昨日終了されているとお聞きしております。ほぼ1カ月後に博善社の星が浦市民斎場で『お別れ会』のご予定になっているそうです。現状はそのようでございます。

喉にがんがあり、その手術でチューブが入った状態で

したが、「調子が良ければ車いすに乗ってテレビを見られるよ」という話でしたので、回復されると思っておりましたが、このような形になってしまいましたので、ご報告をさせていただきます。

本日、お話を伺えましたら、また皆さまにご報告させていただきたいと思っておりますので、現状のことご理解をお願いしたいと思います。

以上です。

■本日のプログラム■

佐渡正幸次年度ガバナー補佐エレクト卓話

中島 徳政幹事

私から本日のご講師を引き受けていただきました次年度ガバナー補佐の佐渡正幸君のご紹介をさせていただきます。略歴を頂戴しておりますので、そのまま読ませていただきたいと思います。

1999年釧路北ロータリークラブ入会、2013-2014年度クラブ幹事、2014-2015年度地区ローターアクト委員長、2015-2016年度クラブ会長、2018-2019年度IM実行委員長になられ、数々のご重責を歴任されております。2023-2024年度には、第7分区ガバナー補佐並びにガバナーノミニーというお役職に就かれる予定になっております。

それでは、佐渡ガバナー補佐、ご講演をよろしくお願いたします。

釧路北ロータリークラブ

佐渡 正幸ガバナー補佐エレクト



皆さん、こんにちは。本日は6月ということで、ロータリー年度におきましては年度末という大変お忙しい中、私の卓話の例会を設けさ

せていただきました滝越会長、そして中島幹事、そして担当の佐藤委員長、本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。

改めまして、2023-2024年度国際ロータリー第2500地区第7分区ガバナー補佐並びにガバナーノミニーを務めさせていただきます釧路北ロータリークラブ所属の佐渡正幸です。どうぞよろしくお願いたします。

ただいま、清水幸彦先生のご逝去ということで、ご冥福を祈り黙祷をさせていただきましたが、私も小学校の時に清水先生がPTA会長をしていたということで、清水先生の挨拶を小学校の入学式・卒業式で拝聴して、紳士的な大人だと感じて成長をさせていただいた記憶があります。

釧路クラブの会員の皆さまでは、西池淳君が小中学校の同級生でして、先日、飲み屋でお会いして「今日は手術があって行けない」ということでした。高校時代の同期の得地君や先輩の方がたくさんおられて、ロータリーのみならず、J CあるいはY Gの活動あるいは商工会議所の議員として長いお付き合いをいただいております。皆様の前で何を話したら良いのかと感じておりました。私は1999年に釧路北ロータリークラブに縁あって入会させていただき、そのロータリーの中で感じたこと、そしてこれから来年度ガバナー補佐並びにガバナーノミニという役職をいただいた中で進んでいく気持ちを話させていただこうと思っております。

釧路クラブは、1936年に創立ということで、この釧路地域の第7分区をはじめ2500地区のトップリーダーとして引っ張ってこられたクラブと思っております。そして、われわれは、1958年に釧路クラブからスポンサーをいただいて設立した訳です。現在、64年目として進めさせていただいておりますが、良い意味で競いながら進んできたロータリークラブだったのかなと思っております。

私が、入会した当時は、会員数も100名を超えておまして、だいたい釧路クラブと同じような数でこの第7分区でロータリーというものを引っ張っていた、先導していたと感じております。

私が入って24年の中で、まず、ロータリーに入ってきたきっかけは、当時のスポンサーは税理士の大月健司さん、そして「スーパーまつだ」の元社長の松田弘正さんです。二人のご紹介をいただいて32歳の時に入会させていただきました。実はその4年後にJ Cに入っておりますし、Y Gもその後に入っておりますので、ロータリーが最初のこういう関係の団体で、勉強をさせていただいた所です。入った時は本当にそうそうたる会員の方がいらっしゃいました。入って最初に座ったテーブルの隣が村井建設の会長であられました村井大先輩でした。その時に「佐渡君、ロータリーはどう？」と気軽に話しかけられまして、「どうもこうも、今よく分からない状態です」と。その時に村井さんは「ロータリーの難しいことは、これからいろいろと勉強をして行けば分かるよ。僕はロータリーで知り合った友達が約束もせず週に1回集まって、会って話ができる。それがロータリーの楽しさなのです」と言っていたことをいまだによく覚えています。

今日この講演をするにあたってロータリーに対する愛情をどのように育んでいくのかを考えさせていただきました。

濱口憲太君が入会をして2年目で既に副幹事をやっておられ、来年は親睦委員長と、すっかりロータリーへの思いがいま育まれていると思っております。どうですか濱口君、ロータリーは楽しいですか。

(「はい」)

北クラブの方は結構分かっていると思いますけれど、僕は講演中に名指して質問をします。ですから、ウチのメンバーは緊張をしながら聞いています。

まずは、ロータリーに対する愛情というか思いの出発点は、ロータリーに関心を持つことだと僕は思っております。関心とは、関わる心ですね。いわゆるロータリーに対する興味や、ロータリーのこのようなことに凄く惹かれるな、という1つの関心事からロータリーに対する思い・愛情が始まると思っております。そしてその後、この関心が、感じる心の感心が変わる時がやってくると思っております。いわゆる感動ですね。ロータリーの活動をしていての感動だと思います。その中からこのロータリーが楽しい・好きだ。そして価値ある・意義ある、と段々と発展していくと思っております。そして、その後「ロータリー愛」が生まれてくると思うのです。

この愛情が育つ過程においては、多分、ベテラン会員の皆さまはそうだと思いますけれど、その中にいわゆる苦しいこと、苦悩であるとか、理不尽に思うこと、あるいは時には失望すること。もう辞めてしまいたい、そのような思いが発生してくると思っております。その辛い思いを初めて乗り越えた時に本当の愛、真実の愛が生まれると思っております。

その真実のロータリーに対する愛情は、1番は自分のクラブを愛する気持ちをまず優先してほしいと思っております。全体ではなくて、自分のクラブが凄く好きだ。凄く楽しい。凄く価値がある、そのように思う気持ちを育んでいただきたいと思っております。しかしながら、その中で一番怖いものは、愛情が深まれば深まるほど、他のロータリアンの人たちとか、他のロータリークラブに対して批判するような気持ちが段々芽生えてくるものだと思います。

これって、人間関係とちょっと似ていますよね。まずその人に関心を持って、いろいろな行動をして付き合いの中で、感じる感心を持って、いろいろな苦悩や何かがあって、その人を本当に好きになる人間関係と一緒に、ロータリークラブの活動もそのような流れで愛情が芽生えていく。その中で、他のロータリアンを批判したり他のクラブを批判したりすることはしないでほしいと思う。批判ではなく批評は良いと思っております。善し悪し、特に「善」の部分ですね。そのクラブは、その人は、この部分について良い面を持っている。このクラブのこの活動は自分のクラブにはない良いものがある、と感じていただくことが大事だと思います。

僕は今日、話をする事で多田幹事に「少し心細いのでウチのメンバーを何人か誘って来てほしい」と話したら、すみません、3テーブルになってしまいました。釧路クラブの親睦委員会の皆さまにご迷惑をおかけしたと思っておりますが、ウチのクラブも見て分かるとお若い

いメンバーが多くて、おそらく釧路クラブに初めて来た会員がほとんどそうかな。ですから、『四つのテスト』の歌を佐々木君は初めて歌いましたよね。そのように、それぞれのクラブのしきたりとか、違い、良さをぜひとも感じていただきたくて今日は来ていただいた訳です。

ロータリーに対する関心の私の1つの出来事として、入会して1年目か2年目だったと思いますが、もう亡くなりましたが、パストガバナーで私たちのクラブの坂本一先生の家、釧路クラブでは『炉辺会合』という家庭集会で呼ばれた時に坂本パストガバナーからお話をいただいたことがあります。

緒方貞子さんという方がおりますが、非常に有名な方なのでご存じだと思いますが、彼女は日本人初の国連難民高等弁務官を務められました。1991年から2000年にその役職を務められました。彼女は1951年にロータリー親善奨励学生として留学され、ロータリアンの方々との交流を通じて『超我の奉仕』というロータリーのモットーに深い感銘を受けて、それ以来、自分の人生の指針になったということです。彼女が1991年に国連のステージで就任の挨拶をした時に「いまの私の人生、ここで話ができる立場があるのは、すべてロータリーのおかげです」というスピーチをしたのだよと坂本先生から言われました。そこで「ロータリーは凄い」という関心が芽生えた訳であります。1990年に湾岸戦争が勃発して緒方貞子さんは91年から役職に就いていますので、非常に激しい世界情勢の中で難民が溢れる中、それぞれの国が受け入れるか、受け入れないかという判断を迫っている中において、常に人道的な視点から物事を捉えてそれを実践された方です。この話を聞いて、ロータリーは今までの自分が考えていたものと違うレベルの高い世界的な活動の中で、多くの人間を、多くの人々を幸せにしている団体なのだ、ということで私の中ではここに最初の関心がありました。

次に考える感心については、やはりロータリーに入ってから何かしらの役職を受ける中で芽生えてくるものがあると思っております。

先ほどご紹介をいただきましたが、2013-2014年度に幹事をさせていただきました。当時の釧路クラブの会長は吉田さんで、脇さんが幹事という年度でした。そして2015-2016年度はロータリークラブの会長を務めさせていただきました。当時の釧路クラブの会長は西村さん、幹事が中村幸史さんでした。その時のガバナー補佐が白幡さんでした。非常にお世話になりました。ありがとうございます。

幹事の時に国際奉仕で、モンゴルに1年間に2回も行ってきました。山形ロータリーの米山奨励学生として来ていたモンゴルのジャンチブさんが、日本で教育を学んだ後に自国モンゴルに帰って自分で日本式の学

校を作りました。私たちはその学校を視察するとともに、皆さんご存じのとおりモンゴルは砂漠地帯ですので、乾燥地帯で皮膚病が蔓延しているが、それを治す医者が育成されていないということで、足立先生が皮膚科ということもあり、そこで皮膚科の医学生・研修医の皆さま30人ぐらいに3週間くらい講習を受けさせる国際事業をさせていただきました。

その時に同行いただいたのが先日、職業奉仕で講師をいただいた鶴岡ロータリークラブのパストガバナー藤川享胤さんでした。藤川さんと一緒にその活動を行い、モンゴルの草原に行ってゲルに泊まりながらロータリーのこと、あるいは人生の話聞いた記憶があります。そして、その新モンゴル高校の校訓に掲げられていた言葉に僕は感心をしました。「我が高校を卒業した者は下記の役職に就くことを目標として頑張ってくれ」という校訓でした。

1つ、我が国の大統領となること。

1つ、オリンピックにおいて金メダル獲ること。

1つ、国連の事務総長になること。

という校訓が掲げられておりました。このような具体的な役職を校訓に挙げることは日本の学校ではあまり考えられませんよね。清く・正しく・美しくとかが日本の学校の校訓ではありますが、モンゴルという国の大陸的な考え方もあるのかもしれませんが、非常に具体的に将来の目標を掲げていることに感銘してジャンチブ先生に話を聞いたところ、「これは日本で学んだことですよ」と逆に言われました。日本の教育はそこまで子どもたちの将来を具体的に指導しているのかととても疑問に感じましたが、モンゴルにおいての国際奉仕の活動が私のロータリーに対する1つの感心事、感じる心になったと思います。

釧路クラブにおかれましては、パストガバナーの小船井さん、吉田さん統率の下、非常に多くの国際奉仕活動をされています。タイの3330地区への水などの活動でも荒井先生も結構行かれています。地域の中やクラブの中でのロータリー活動の関心から国際的な部分に及んだ時の感心は非常に高いと思います。

この後、私の話をさせていただきますが、これからの2500地区、あるいは第7分区においての奉仕活動を少し見直していく時期なのかと思っています。

関心の次の苦悩、あるいは失望については、僕は、あまり失望はありませんが、苦悩については、それぞれのクラブの中においてそれなりの役職をもらった時に、そしてそこに対して自分のクラブを変えたい、変えよう、発展するために、という思いで行動した時に様々な苦悩が発生してくると思います。

私が2015-2016年度に会長の時、中島谷君が幹事を務めていただきましたが、これからのうちのクラブの課題としては、会員増強と若い会員が活動しやすい

クラブをどう作るのかで、年会費を6万円から7万円下げて、食事については受益者負担で食べたい人は食べてください。その時にお金を払ってくださいとして会費を下げ、若い会員がロータリーに出やすい環境を作るために月に2回の夜例会を設けて実行させていただきました。ベテラン会員、あるいは多くの会員から批判ではなく批評を受けたことがたくさんありまして、その中で思い悩み、苦悩したことはたくさんあります。

その時に、田村先輩がいつものように飲み会で近づいてきて「佐渡君、貴方のやっていることは素晴らしいことだよ。いわゆる正論だよ。ただ、あまり急がずやってもいいところもあるよ。長い目で見て、本当の正義が何なのかが感じられることもあるからね」という優しい言葉でありつつ、本当に深い言葉をいただいて、もうそれが僕のロータリーに対する感じる心、感動になって1年間はこれで何とかやり切って行こう、これからのために。という思いでさせていただきました。本当にロータリーは、いま56歳という年になった時に、これからの自分の人生を考えることがたくさん出てくる中において、皆さまからいただいている言葉、あるいは会議・会合に出た時に誰かが話していた言葉、あるいは話してはいないけれど目には見えないけれど、その陰で動いている人たちの行動、をいろいろ見ることによって本当に勉強になる、感心する団体だと思えます。

釧路クラブにおかれましては、こう見ると若いメンバーが非常に多いので、やはり出席しないとその心が育まれないと思えますので、出席率を向上することは非常に難しいことですが、皆さま、この感じる心・感心する心、そして自クラブの愛というものを求めて進んで行っていただければと思っております。

今回、鶴見ガバナーエレクトの思いの下、「前年度からの『クラブ協議会』をガバナー補佐エレクト主導で行っていただきたい」という通達がありました。そして今日、この後、釧路クラブの協議会にも私は参加させていただきますが、鶴見さんの思いは『公式訪問』の中で協議会を行っている、最後の協議会が終わるのは、地区大会の1週間前になってしまいますから、ほぼほぼ3カ月経った中でガバナーがそれぞれのクラブの協議・活動内容を知ることよりは、事前にクラブの活動を知った中で、そして公式訪問においては『ガバナーとの意見交換会』で、そのクラブのためになることを話して進んで行きたいという思いです。

また、2500地区においては、通常ガバナーが公式訪問において挨拶をしていましたが、他の地区においてはガバナー補佐が主体となってこのクラブ協議会を行うことが通常のスタイルとなっているそうですので、これは小船井さんもおっしゃっていましたが、ぜひ新しいスタイルで行ってほしいということです。

おそらく鶴見ガバナーは、いま私が申し上げたとおり新しい改革をする中で、苦悩に満ちているのではないかと思います。しかしながら、私はこの公式訪問の中でのガバナーとの意見交換会の善し悪し、これを素晴らしいものにするによって鶴見さんの思いが高まるし、そして私がガバナーを務める中で、この方向性の善し悪しを判断していきたいと思っておりますが、私としてもこの事前のクラブ協議会をぜひとも開催し、7月1日早々に各クラブが親睦・奉仕活動に進んで行ける体制を作っていくことが大事だと思っております。第7分区には、300人余りのロータリアンがいますが、やはり若い会員もベテランの会員もいらっしやいます。20年ぐらいの私みたいな中堅の会員もいますが、改めてそれぞれの人がロータリーに関心、そして感じていただく心、そして自分のクラブをととても好きだという思いをガバナー補佐として作っていくことが一番の責務と感じておりますので、特に釧路クラブの100名の会員の皆さまには、ぜひともご理解ご協力をいただきたいと思います。世のため・人のために行動すること。いわゆる利己の心を捨てて利他の心を持って人生を過ごすということの意義、あるいは価値というものが、その人その人の心を豊かにします。そして、自己満足よりも人に与えることによる満足感が本当に良質な心・良質な人間を作り上げると私は思っています。分区内において私の年度では、多分達成することはできないと思っておりますが、中長期的な目標として分区内においての活動の幅をぜひとも広げていく活動を行っていただきたいと思えます。

ひとつのクラブで、なかなか成し遂げられないこと。いわゆる国際奉仕や青少年奉仕に関しても、それぞれのクラブの中でスポーツ等を通じて行っておりますが、これが1つにまとまって結束した時には凄い力を発揮するのではないかと考えています。これからの世の中はやはり青少年を育成することが本当に重要と思っておりますので、分区内において新しいスタンスができてくればと思えます。

釧路クラブ主管で7月29日の『全道中学校野球大会』が分区の事業になっていますので、ここも青少年事業のスポーツを通して、しかも他の地域から中学生・親御さんが来る大会ですので、しっかりと分区の代表として務めて行きたいと思えます。そのことが会員拡大、そしてロータリーの公共的イメージアップにつながると思えます。各クラブが会員拡大、出席率向上、公共的イメージアップについても行っていますが、ここも分区として心をひとつに行動することによって、もっとも成果を残せるのではないかと考えています。先日、小船井さんもIMでお話をしていましたが衛星クラブのスポンサー制度の見直しにも関わってくるかと思えますので、次年度ガバナー補佐として、あるいはガバ

ナーノミニーとして活動をしていきたいと思っているところですよ。

そろそろ時間になりますので、まとめの話をさせていただきます。ずっと会員をしている方も、新しい会員の方も、基本的な心のテーマとは、「ロータリーって何ぞや」ということがやはり一番の思い。しかしながら、なかなか答え見つからないから、みんなロータリー活動を進めているのだと思います。

私、現在の思いは、先ほども言葉を出しましたが、良質な人、あるいは良質な人間関係をつくる場、それはいわゆる人生道場でもあり、ときには人生劇場になることもあると思いますが、ロータリーという理念・考えを元にみんながひとつの心で進む良い質の人間関係の場がロータリーなのかと思います。

余談ですが、私の好きな作家に司馬遼太郎さんがいて、彼が亡くなる2～3年前にNHKのインタビューを受けていた時のことで鮮明に残っている言葉があります。「司馬さん、人生というものは、どのようなものですか」とNHKのアナウンサーが聞いた時に、「まずは、宿命の中で生まれて、そして人生の中で運命に出会い、そこに挑戦し、その中で与えられた使命に燃えること、これが人生なのではないか」と司馬遼太郎

さんは言っていました。

まさに、私はこれから運命に挑戦し、そして使命に燃えながら、2500地区、そして第7分区のために頑張っていきたいと思っています。釧路クラブと釧路北ロータリークラブは親子の関係です。これからさらに友情を深めた中で進んでいきたいと思っています。最後は、皆さまに感謝をしながら進んでいきたいと思っています。

Service Above Self と『超我の奉仕』をフランク・コリンズが1911年の国際大会で言ったものが、100年以上もその精神が続いている。このロータリーの火を消さないように使命を燃やしながらか進んでいきたいと思っています。

何卒どうぞよろしくお願ひ申し上げまして、話とさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 佐渡 正幸君 本日の例会、協議会よろしくお願ひいたします。
- 後藤 公貴君 次年度佐渡ガバナー補佐。中島谷会長率いる釧路北ロータークラブの皆様、ようこそ。
- 邵 龍珍君 佐渡次年度ガバナー補佐、本年度中島谷会長はじめ北クラブの皆様、ようこそ釧路クラブへ。
- 杉村 莊平君 アメリカ弾丸ツアーから無事に生還しました。息子も無事に卒業出来ました。
- 舟木 博君 今日は久しぶりに朝から体調が良くて、いい日です。

今年度累計 331,000円